

ニース首脳会議の成果 (EU)

ウィーン・センター

フランスのニースで12月に開催されたEU首脳会議では、EU27カ国への拡大に向けて、特定多数決持ち票、欧州議会議席数の配分などを中心とする機構改革について一応の合意が達成された。しかし、一方では将来の新規加盟国の欧州議会での議席数が現加盟国の議席数より少なくなるなど、一部の合意内容に不満を持つ国もあった。とはいえ、今回の首脳会議は、拡大後のEUにおける共存のルールが議論された最初のものであり、将来の新規加盟国と現加盟国の関係がさらに深まったものになったという印象を与えた。

本レポートは、ウィーン国際経済研究所がニース首脳会議の成果についてまとめたものである。

はじめに

2000年12月、ニースで開催されたEU首脳会議は、当初予定の7～9日の3日間を超え、11日の早朝まで続いた。首脳会議では、特にEU拡大を視野に入れた欧州議会議員定数、および理事会の特定多数決持ち票数に関する議論に長い時間が費やされ、実際、首脳会議の最後の数分間にやっと妥協に達した。

欧州議会議員定数と理事会の特定多数決持ち票数の問題は、EU拡大において大変重要な問題であり、この2つの問題に関する合意なくしてEUの拡大は不可能であった。

1. 欧州議会議席数

欧州議会の議席数は、現行626議席、定数上限は700議席となっており、2004年1月1日

からは、定数上限が732議席に増加する。ただし、この新規定数は、2004～2009年の期間限定とし、新規加盟国の加盟条約調印を遅くとも2004年1月1日までにに行った場合を条件として導入される。

2004年1月1日以降の欧州議会の議員定数は、各国の人口に比例しておらず、EU加盟交渉国は人口がほぼ同数の国より少ない議席数を割り当てられた。例えば、ベルギー、ギリシャ、ポルトガルはそれぞれ22議席を割り当てられたのに対し、チェコ、ハンガリーはそれぞれ20議席を割り当てられた（詳細は表を参照）。加盟交渉国で最大の人口を有するポーランドは50議席でスペインと並び、加盟交渉国で2番目に人口が多いルーマニアは33議席を割り当てられた。シラク仏大統領は、これらの不可解な比率について、「新規加盟

.....

国は現加盟国の議席数より少なくなるだろう」と言及している（2000年12月16日号 Economist）。ハンガリーは、すでにこの不平等な扱いに対して政治的キャンペーンを開始した。

首脳会議で決められた持ち票数の配分と欧州議会の議員定数は、おそらく理論的に最も妥当とみられなくても、EU加盟交渉国にとっては重要な決定事項となった。この合意は不十分であっても、必要な合意であるとみなさなければならない。

2．特定多数決持ち票数

首脳会議で決定された理事会における特定多数決持ち票数は、人口を考慮した場合に正当と思われる持ち票数よりも著しく少ないルーマニアを除き、人口に比例しており、2005年1月1日に導入される（表を参照）。

折衝が最後まで続いた特定多数決持ち票数の配分は、ベルギーがフランスの提案に対し最後まで抵抗し、最終的には大国が妥協し5大国（独、英、仏、伊、西）とポーランドの持ち票を1票ずつ削り、ベルギーなど6カ国に1票ずつ上積みすることで合意に達した。

具体的には、各国持ち票合計の現行87票を、EUが27カ国に拡大した時に、345票とし、特定多数決に必要な現行62票以上を255票以上とした。

特定多数決の適用範囲は拡張され、当初予定されていた50項目のうち、約40項目で特定多数決が適用された。引き続き全会一致方式が適用される項目は、英国が主張した社会保障政策、ドイツが主張した亡命・移民政策、スペインなどが主張した経済的・社会的結束などである。

3．欧州委員会委員数

欧州委員会委員の構成（現行は5大国より2名（慣行）、小国より1名、計20名）については、フランスの当初提案は、2005年まで各加盟国が1人ずつ委員を選出し、2010年に20人の定員とする案であったが、小国の抵抗にあり、最終的には2005年1月1日から「1カ国1委員」とした。構成員数は、加盟国数を下回るものとし（加盟国が27に増えた時点で26人以下に抑える）、平等原則に基づく輪番制により選出されることで合意した。

4．ニース首脳会議の成果の影響

EU加盟交渉国も視野に入れたニース首脳会議の成果は、EUの現在と将来の加盟国間の壁が、当初EUの政治家と各国民によって認識されていたものよりも低くかつ薄くなったという印象を与えた。EU拡大問題は現在、抽象的で関係の薄い課題としてではなく、そう容易ではないが、現実的な手段と、良くも悪くも妥協から成る処理しやすい問題として理解されるようになった。初期のEU首脳会議は、EU加盟申請国に対する加盟のための条件の確定などが課題であったが、ニース首脳会議は、拡大後のEUにおける共存のルールが議論された最初の場所であり、現在の加盟国も、将来の新規加盟国もほとんど平等の加盟国として扱われた場所であった。

首脳会議の限られた成果と次善の妥協に関するメディアの批判にもかかわらず、加盟交渉国の見解によれば、ニース首脳会議は疑いもなく成功であった。今後、拡大の問題は、大方、加盟交渉国の成熟の程度と加盟交渉の進展度合にかかっているだろう。

表 理事会の特定多数決持ち票数の配分と欧州議会議員定数に関するニース条約

	理事会の特定多数決持ち票数		欧州議会議員定数		人 口 1999年 (単位：100万人)
	EU15カ国 (2004年末まで)	EU27カ国への 拡大に向けて (2005年以降)	EU15カ国 (2003年末まで)	EU27カ国への 拡大に向けて (2004年以降)	
ドイツ	10	29	99	99	82.0
フランス	10	29	87	72	59.0
イタリア	10	29	87	72	57.6
英国	10	29	87	72	59.2
ポーランド	-	27	-	50	38.7
スペイン	8	27	64	50	39.4
ルーマニア	-	14	-	33	22.5
ベルギー	5	12	25	22	10.2
チェコ	-	12	-	20	10.3
ギリシャ	5	12	25	22	10.5
ハンガリー	-	12	-	20	10.1
オランダ	5	13	31	25	15.8
ポルトガル	5	12	25	22	10.0
オーストリア	4	10	21	17	8.1
ブルガリア	-	10	-	17	8.2
スウェーデン	4	10	22	18	8.9
デンマーク	3	7	16	13	5.3
フィンランド	3	7	16	13	5.2
アイルランド	3	7	15	12	3.7
リトアニア	-	7	-	12	3.7
スロバキア	-	7	-	13	5.4
キプロス	-	4	-	6	0.8
エストニア	-	4	-	6	1.4
ラトビア	-	4	-	8	2.4
ルクセンブルグ	2	4	6	6	0.4
スロベニア	-	4	-	7	2.0
マルタ	-	3	-	5	0.4
合計	87	345	626(上限700)	732	481.2

出典：Observatoire social européen, electronic newsletter 2000年12月第5号、Economist 2000年12月16日号。